

平成30年度（2018年度）採択プログラム 中間評価調書

卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名		大阪大学		整理番号	1812
1.	プログラム名称	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養			
	英語名称	Transdisciplinary Program for Biomedical Entrepreneurship and Innovation			
2.	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名(職名)	にしお しょうじろう 西尾 章治郎 (大阪大学学長)		
3.	プログラム責任者	ふりがな 氏名(職名)	くまのごう あつし 熊ノ郷 淳 (大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・研究科長)		
4.	プログラム コーディネーター	ふりがな 氏名(職名)	もりい えいいち 森井 英一 (大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授)		
5.	設定する領域	最も重視する領域 【必須】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野		
		関連する領域(1) 【任意】	③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域		
		関連する領域(2) 【任意】			
		関連する領域(3) 【任意】			
6.	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)			
		最も関連の深い区分 (中区分)	49	病理病態学、感染・免疫学およびその関連分野	
		最も関連の深い区分 (小区分)	49010	病態医化学関連	
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】			
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	47	薬学およびその関連分野	
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	47010	薬系化学および創薬科学関連	
7.	授与する博士学 位分野・名称	博士(医学)、博士(保健学)、博士(看護学)、博士(歯学)、博士(薬科学)、博士(薬学)、博士(生命機能学)、 博士(理学)、博士(工学) 付記する名称：(生命医科学の社会実装プログラム修了)			
8.	学生の所属する 専攻等名 (主たる専攻等がある場 合は下線を引いてくださ い。)	大阪大学大学院医学系研究科医学専攻、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、 大阪大学大学院歯学研究科口腔科学専攻、大阪大学大学院薬学研究科創成薬学専攻、 大阪大学大学院薬学研究科医療薬学専攻、大阪大学大学院生命機能研究科生命機能専攻			
9.	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※該当する場合には○を記入		10. 本プログラムによる学位授与数(年度当たり)の目標 ※補助期間最終年度の数字を記入してください。		
連合大学院		共同教育課程		20	
11. 連携先機関名(他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
Johnson & Johnson Innovation、ファイザー(株)、ノバルティス ファーマ(株)、医薬基盤・健康・栄養研 究所、国立医薬品食品衛生研究所、(独)医薬品医療機器総合機構、大阪府、第一三共(株)、バイエル薬品 (株)、塩野義製薬(株)、中外製薬(株)、日本イーライリリー(株)、タカラバイオ(株)、IQVIAソリュー ションズジャパン(株)、大塚製薬(株)、田辺三菱製薬(株)、シスメックス(株)、(株)クオンタムオペ レーション					

(【1812】機関名：大阪大学 プログラム名称：生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養)

[公表]

14. プログラム担当者一覧								
※「年齢」は公表しません。								
番号	氏名	カナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
1	(プログラム責任者) 熊ノ郷 淳	クマノゴウ アツシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授(研究科長)	博士(医学)	内科学、免疫学	教育プログラム遂行の統括	1
2	(プログラムコーディネーター) 森井 英一	モリエイ エイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	病理学	教育プログラム遂行全体のコーディネーター	4
3	菊池 章	キクチ アキラ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	生化学, 腫瘍生物学	生化学領域における研究実践力の涵養	1
4	坂口 志文	サカグチ シモン		大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・特任教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
5	審良 静男	アキラ シズオ		大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・拠点長・特任教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
6	岡村 康司	オカムラ ヤスシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	生理学	生理学領域における研究実践力の涵養	1
7	河原 行郎	カハラ ユキオ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	RNA生物学, 神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
8	石井 優	イシイ マサル		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(医学)	免疫学, 細胞生物学	免疫学領域における研究実践力の涵養	0.5
9	Daron Standley	ダロン スタンドレー		大阪大学・微生物病研究所 遺伝情報実験センター ゲノム情報解析分野 教授	博士(化学)	システム免疫学 ゲノム情報解析分野	Foster the research ability in bioimaging	1
10	Nicholas Smith	ニコラス スミス		大阪大学・先導的学際研究機構・准教授	Ph. D. Applied Physics	Bioimaging of Immune Response	Foster the research ability in bioimaging	0.5
11	竹田 潔	タケタ ケン		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
12	磯 博康	イソ ヒロユキ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	公衆衛生学, 疫学, 予防医学	疫学領域における研究実践力の涵養	3
13	金井 好克	カイヨウキ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	薬理学	薬理学領域における研究実践力の涵養	1
14	島田 昌一	シマダ ショウイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
15	佐藤 真	サトウ マコト		大阪大学・大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所・医学専攻・教授	博士(医学)	神経科学, 神経解剖学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
16	原田 彰宏	ハラタ アキヒロ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	細胞生物学	細胞生物学領域における研究実践力の涵養	1
17	加藤 和人	カトリ カズト		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(理学)	生命倫理, 医学倫理, 公共政策	研究を進める上での倫理問題の教育	1
18	服部 聡	フットリ サトシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	医学統計学	統計学領域における研究実践力の涵養	1
19	谷内田 真一	ヤチタ シンイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	がんゲノム情報学	ゲノム医学における研究実践力の涵養	1
20	下村 伊一郎	シモムラ イチロウ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	内分泌代謝内科学	内分泌代謝学における研究実践力の涵養	0.5
21	西田 幸二	ニシタ コウジ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	眼科学, 再生医学, 発生生物学	再生医学領域における研究実践力の涵養	0.3
22	貴島 晴彦	キシマ ハルヒコ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	脳神経外科学	神経医学領域における研究実践力の涵養	1
23	猪阪 善隆	イカ ヨシタカ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	腎臓内科学	腎臓内科領域における研究実践力の涵養	1
24	樂木 宏実	ラキギ ヒロミ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	老年医学	老年医学領域における研究実践力の涵養	1

(【1812】機関名：大阪大学 プログラム名称：生命医学の社会実装を推進する卓越人材の涵養)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
25 坂田 泰史	サカタ ヤスシ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	循環器内科学	循環器内科領域における研究実践力の涵養	1
26 竹原 徹郎	タケハラ テツオ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	消化器内科学	消化器内科領域における研究実践力の涵養	0.5
27 岡田 随象	オカダ ユキヲ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	遺伝統計学	遺伝統計学領域における研究実践力の涵養	1
28 野々村 祝夫	ノムラ リウ		大阪大学・大学院医学系研究科・医学専攻・教授	博士(医学)	泌尿器科腫瘍	腫瘍領域における研究実践力の涵養	1
29 天野 敦雄	アミノ アツオ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	予防歯科学	予防歯科領域における研究実践力の涵養	0.5
30 今里 聡	イマサト サトシ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	歯科理工学, 生体材料学	生体材料学領域における研究実践力の涵養	1
31 西村 理行	ニシムラ リウキョウ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	分子生物学	歯科領域分子生物学における研究実践力の涵養	1
32 川端 重忠	カワハタ シゲタカ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	微生物学	微生物学領域における研究実践力の涵養	1
33 豊澤 悟	トヨサワ サトル		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	口腔病理学	口腔病理学領域における研究実践力の涵養	1
34 野田 健司	ノダ ケンシ		大阪大学・歯学研究科附属・口腔科学フロンティアセンター・教授	博士(理学)	細胞生物学	口腔領域における細胞生物学での研究実践力の涵養	1
35 村上 伸也	ムラカミ シンヤ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	歯周病学	歯周病学領域における研究実践力の涵養	0.5
36 林 美加子	ハヤシ ミカコ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	歯科保存学	歯科保存学領域での研究実践力の涵養	1
37 山城 隆	ヤマシロ タカシ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	歯科矯正学	歯科矯正学領域での研究実践力の涵養	1
38 仲野 和彦	ナカノ カズヒコ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士(歯学)	小児歯科学, 臨床口腔細菌学	小児歯科領域での研究実践力の涵養	1
39 長島 正	ナガシマ タカシ		大阪大学・歯学部附属歯学教育開発センター・教授	博士(歯学)	歯科医学教育学	教育システムを通じた社会実装力の涵養	1
40 十河 基文	ソコウ モトフミ		大阪大学・大学院歯学研究科・イノベーション・デンティストリー戦略室・教授	博士(歯学)	産学連携・大学発ベンチャー	研究、ビジネス検討、特許化、製品化、薬機申請、治験、産学連携/起業、上市へむけた社会実装力の涵養	1
41 赤井 周司	アカイ シュウジ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(薬学)	有機化学・医薬品化学	有機薬化学領域での研究実践力の涵養	1
42 水口 裕之	ミズグチ ヒロユキ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成薬学専攻・教授	博士(薬学)	分子生物学	分子生物学領域における研究実践力の涵養	0.5
43 小比賀 聡	オヒガ サトシ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成薬学専攻・教授	博士(薬学)	核酸化学・生物有機化学	核酸化学領域における研究実践力の涵養	0.5
44 辻川 和丈	ツジガワ カズタケ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成薬学専攻・教授	博士(薬学)	細胞生理学	細胞生理学領域における研究実践力の涵養	0.5
45 堤 康央	ツツミ ヤスオ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成薬学専攻・教授	博士(薬学)	毒性学	毒性学における研究実践力の涵養	1
46 橋本 均	ハシモト ヒトシ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(薬学)	分子神経薬理学	薬理学領域における研究実践力の涵養	1
47 中川 晋作	ナカガワ シンサク		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(薬学)	生物薬剤学	薬剤学領域における研究実践力の涵養	1
48 藤尾 慈	フジオ ヤスシ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(医学)	分子循環薬理学, 臨床薬理学, 循環器内科学	循環器学領域における研究実践力の涵養	0.5
49 高木 達也	タカギ タツヤ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(薬学)	計量薬学, 社会薬学	計量薬学領域における研究実践力の涵養	2.5
50 大久保 忠恭	オオクボ タダヤス		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士(理学)	生物物理化学	生物物理化学領域における研究実践力の涵養	1
51 荒尾 晴恵	アラオ ハルエ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(看護学)	がん看護学・緩和ケア	がん看護学領域における研究実践力の涵養	1

(【1812】機関名：大阪大学 プログラム名称：生命医学の社会実装を推進する卓越人材の涵養)

[公表]

14. プログラム担当者一覧(続き)

	氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
52	近江 雅人	オウミ マサト		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(工学)	生体医用光学	生物医用工学領域における研究実践力の涵養	1
53	松崎 政代	マツザキ マサヨ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(保健学)	母性看護学, 助産学	母性看護学領域における研究実践力の涵養	1
54	石田 隆行	イシダ タカユキ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(工学)	医用画像工学	画像工学領域における研究実践力の涵養	1
55	小泉 雅彦	コイズミ マサヒコ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学), 博士(工学)	放射線腫瘍学	放射線腫瘍学領域における研究実践力の涵養	1
56	神出 計	カミデ ケイ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	老年医学, 生活習慣病, 公衆衛生学	老年医学領域における研究実践力の涵養	1
57	山本 浩文	ヤマモト ヒロフミ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	癌の診断と治療	腫瘍診断領域における研究実践力の涵養	1
58	辻川 元一	ツジガワ モトカズ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	再生医学	再生医学領域における研究実践力の涵養	1
59	尾路 祐介	オノ ユウスケ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	腫瘍生物学, 腫瘍免疫学	腫瘍免疫学領域における研究実践力の涵養	1
60	三善 英知	ミヨシ エイチ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	臨床検査学	臨床検査学領域における研究実践力の涵養	1
61	高橋 正紀	タカハシ マサノリ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	臨床神経生理学	神経生理学領域における研究実践力の涵養	1
62	福地 一樹	フチ カズキ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	放射線診断学	放射線診断学領域における研究実践力の涵養	1
63	酒井 規夫	サイ ノリオ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	小児科学, 臨床遺伝学, 先天代謝異常	臨床遺伝学領域での研究実践力の涵養	1
64	清水 安子	シズマ ヤスコ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(看護学)	慢性疾患看護学	慢性疾患看護学領域における研究実践力の涵養	1
65	木原 進士	キハラ シンジ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学)	臨床検査医学	臨床検査医学領域における研究実践力の涵養	1
66	吉森 保	ヨシモリ タモツ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(医学)	細胞生物学	細胞生物学領域における研究実践力の涵養	0.5
67	近藤 滋	コトウ シゲル		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(医学)	数理生物科学	数理生物学領域における研究実践力の涵養	0.5
68	八木 健	ヤギ タケシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(理学)	神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
69	北澤 茂	キタザワ シゲル		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(医学)	神経科学	神経科学領域における研究実践力の涵養	1
70	長澤 丘司	ナガサワ タカシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(医学)	免疫学, 血液学, 幹細胞生物学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
71	井上 康志	イノウエ ヤスシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(工学)	ナノ・バイオフォトニクス	光生物学領域における研究実践力の涵養	1
72	深川 竜郎	フカガワ リウロウ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(理学)	分子細胞生物学	分子生物学領域における研究実践力の涵養	1
73	上田 昌宏	ウエダ マサヒロ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(理学)	生物物理学, 細胞生物学	生物物理学領域における研究実践力の涵養	1
74	倉橋 隆	クラハシ タカシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(理学)	神経生理学	神経生理学領域における研究実践力の涵養	0.5
75	木村 真一	キムラ マコト		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(理学)	物性物理学	物性物理学領域における研究実践力の涵養	1
76	佐々木 洋	ササキ ヒロシ		大阪大学・大学院生命機能研究科・生命機能専攻・教授	博士(理学)	発生生物学	発生生物学領域における研究実践力の涵養	1
77	松浦 善治	マツウラ ヨシハル		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士(獣医学)	ウイルス学	ウイルス学領域における研究実践力の涵養	1

(【1812】機関名:大阪大学 プログラム名称:生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
78 荒瀬 尚	アラセ ヒサシ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士(医学)	免疫学、微生物学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
79 原 英二	ハラ エイジ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士(理学)	分子腫瘍学	分子腫瘍学領域における研究実践力の涵養	1
80 山本 雅裕	ヤマモト マサヒロ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士(医学)	寄生虫免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
81 山崎 晶	ヤマザキ ショウ		大阪大学・微生物病研究所・教授	博士(農学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
82 鈴木 一博	スズキ カズヒロ		大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・教授	博士(医学)	免疫学	免疫学領域における研究実践力の涵養	1
83 國澤 純	クニザワ ジュン		医薬基盤・健康・栄養研究所	博士(薬学)	免疫創薬学	免疫創薬学領域における研究実践力の涵養	1
84 今井 由美子	イマイ ユミコ		国立医薬基盤研究所・感染病態制御ワクチンプロジェクト・プロジェクトリーダー	博士(医学)	ウイルス・エピゲノム・集中治療	ウイルス学領域における研究実践力の涵養	1
85 瀬尾 亨	セオ トオル		External Science & Innovation, Worldwide R&D, Pfizer Inc.	博士(医学)	代謝性疾患・循環器	社会実装教育における講義および実習指導	2
86 原 健記	ハラ タケキ		ノバルティスファーマ株式会社 エクスターナルイノベーション推進室長	MBA, 学士(薬学)	社会実装学	社会実装教育における講義および実習指導	1
87 十河 真司	トコウ シンジ		大塚製薬株式会社 ディレクター	博士(医学)	血液学・免疫	社会実装教育における講義および実習指導	1
88 服部 有宏	ハットリ ケニヒロ		中外製薬株式会社 参与 研究本部シニアフェロー	博士(薬学)	血液学, 抗体工学	社会実装教育における講義および実習指導	1
89 坂田 恒昭	サカタ ツネアキ		塩野義製薬株式会社 シニアフェロー	博士(医学)	分子生物学・創薬イノベーションオープンイノベーション	社会実装教育における講義および実習指導	1
90 清水 剛志	シミス タケン		IQVIA Solutions Japan K.K Management Consulting Senior Principal, Head of Management Consulting	修士	マネジメント・コンサルティング(ヘルスケア・インダストリー)	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
91 合田 幸広	ゴウダ ユキヒロ		国立医薬品食品衛生研究所所長	博士(薬学)	医薬品及び天然物のレギュラトリーサイエンス/品質保証学	社会実装教育における講義および実習指導	0.2
92 朝倉 渡	アサクラ ワタル		独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 新薬審査第四部長	博士(薬学)	レギュラトリーサイエンス	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
93 池田 純子	イケダ ジュンコ		大阪府 商工労働部 成長産業振興室 副理事		産業振興	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
94 楠 淳	クスノキ ジュン		Johnson & Johnson Innovation Director, New Ventures	博士(薬学)	研究シーズ育成等	社会実装教育における講義および実習指導	1
95 相川 修一	アイカワ シュウイチ		シスメックス株式会社 人事本部 人事課	博士(工学)		社会実装力の涵養	1
96 金田 安史	カナタ ヤスフミ		大阪大学・理事・副学長	博士(医学)	遺伝子治療学	遺伝子治療領域における研究実践力の涵養	1
97 石井 泰子	イシイ タエコ		日本イーライリリー株式会社 研究開発部バイオ医薬品領域 シニアメディカルアドバイザー	博士(医学)	医薬品臨床開発メディカルアフェアーズ	社会実装教育における講義および実習指導	0.5
98 奥山 亮	オクヤマ リョウ		第一三共株式会社 Global Head of SM Research 研究統括部 スペシャルティ第二研究所長	博士(薬学)	薬理学、生化学、細胞生物学	社会実装教育における講義および実習指導	0.5

(【1812】機関名：大阪大学 プログラム名称：生命医学の社会実装を推進する卓越人材の涵養)

[公表]

14. プログラム担当者一覧（続き）

氏名	フリガナ	年齢	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	フォート(割合)
99 久米 俊行	クメ トシユキ		田辺三菱製薬株式会社 創薬企画部 創薬アライアンスグループ 連携推進担当部長	博士 (薬学)	創薬科学, 医薬品研究 開発	プログラム学生の研究成果を迅速にまた効果的に社会に還元していくための社会実装の涵養を育みだす教育・研究指導	1
100 加藤 和磨	カトリ カズマ		株式会社クオンタムオペレーション・代表取締役	学士 (経営学)	細胞生物学	プログラム学生の研究成果を迅速にまた効果的に社会に還元していくための社会実装の涵養を育みだす教育・研究指導	0.5
101 目加田 英輔	メカダ エイスケ		国際共創大学院学位プログラム推進機構・特任教授	博士 (医学)	細胞生物学	学生獲得、講義、研究発表会等の指導など運営全般業務	100
102 本坊 恭子	ホンボウ キョウコ		国際共創大学院学位プログラム推進機構・特任講師	博士 (学術)	人口学, 国際化教育	社会実装教育のコーディネート及び産学連携業務	100
103 山田 憲明	ヤマダ ノリアキ		国際共創大学院学位プログラム推進機構・特任助教	博士 (医学)	循環器内科学	学生のメンター、履修学生への社会実装教育実習の指導、QE準備の指導業務	95
104 上田 幹子	ウエダ ミキコ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士 (薬学)	医療薬学	医療薬学領域における研究実践力の涵養	0.5
105 井上 豪	イノウエ ユウシ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成药学専攻・教授	博士 (薬学)	創成药学	生体構造機能分析学領域における研究実践力の涵養	0.5
106 有澤 光弘	アリザワ ミツヒロ		大阪大学・大学院薬学研究科・創成药学専攻・教授	博士 (薬学)	創成药学	医薬合成化学領域における研究実践力の涵養	0.5
107 齊藤 達哉	サイトウ タツヤ		大阪大学・大学院薬学研究科・医療薬学専攻・教授	博士 (薬学)	医療薬学	生体応答制御学領域における研究実践力の涵養	0.5
108 加藤 隆史	カトリ タカフミ		大阪大学・大学院歯学研究科・口腔科学専攻・教授	博士 (歯学)	口腔生理学	高次脳口腔機能学における研究実践力の涵養	0.5
109 近藤 昌夫	コトウ マサオ		大阪大学・大学院薬学研究科・教授	博士 (薬学)	環境薬学, 衛生薬学	医薬品・医療機器規制科学における研究実践力の涵養	0.5
110 北川 正成	キタガワ マサナリ		タカラバイオ株式会社 開発本部長	博士 (農学)	バイオサイエンス	社会実装教育における講義および実習指導	1
111 吉田 佳代子	ヨシダ カヨコ		大阪大学・医学系研究科メディカル・ヘルスケア知財戦略室・特任教授	博士 (農学)	免疫学領域における研究実践力の涵養	社会実装教育における講義および実習指導	1
112 西尾 禎治	ニシオ テイジ		大阪大学・大学院医学系研究科・保健学専攻・教授	博士(医学), 博士(理学)	医学物理学	医学物理学領域における研究実践力の涵養	0.5
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							

(【1812】機関名：大阪大学 プログラム名称：生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養)

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項**・本プログラムの理念の大学全体への水平展開**

大阪大学はイノベーション分野で国内トップ（Nature Index 2017 Innovation 世界 31 位、国内 1 位）の環境にあり、この環境をさらに充実すべくイノベーションを担う人材輩出を目的に、絶対的な研究実践力と研究成果の社会実装力を兼備する博士人材を育成する主専攻型学位プログラムを立ち上げた。本プログラムは大学院教育改革の先導的な役割を果たしており、総長を機構長、理事・副学長を副機構長とする国際共創大学院学位プログラム推進機構の中に位置づけられた。本プログラムの「知のプロフェッショナルとして、研究成果を目利きでき、社会実装を推進し、研究開発エコシステムをまわすことのできる能力を有する博士人材の育成」という理念は、大学全体へ展開された結果、現在「研究開発エコシステム」から「OU（大阪大学）エコシステム」として大学全体の基本方針となっている。本プログラムは医歯薬生命系の学生に研究開発エコシステムを体得させる内容であったが、現在の OU エコシステムでは生命系に限らず、理工情報系、人文社会系の分野においてもエコシステムを回しながら研究開発を進め社会に問いかけ、そこで得られた新たな課題を研究現場に戻していく精神を基軸としており、まさしく本プログラムの理念が大学全体に展開されたものである。

・多様な履修生の獲得

本プログラムでは、本学の医学系研究科（医学専攻、保健学専攻）、歯学研究科、薬学研究科、生命機能研究科に合格した学生を対象に独自の選抜試験を行い、その結果、学部卒の新卒者をはじめ、メガファーマやベンチャー企業での社会人経験者、現役医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、国外大学での学位取得者、留学生など、多様で優秀な人材を受け入れることができた。これにより、履修生同士での多角的な視点からの意見交換、情報交換が可能となっている。また連携機関から多様なバックグラウンドをもった教員が参画していることから、各々の専門分野、経験に基づいた意見を交わすことで正の効果が生まれている。履修生が早い段階から学生同士、および産官学の多様な立場の教員と交流することで、キャリアパスの選択肢を知り、視野広く考えるきっかけとなっている。

・綿密なメンター制度の確立

綿密なメンター制度を設け、特任教員が、履修生の日頃の研究活動・学習・進路、研究分野の専門性を超えた指導・助言、また、履修生の学業進捗度や状態を把握し、アカデミック活動以外の相談役ともなっている。新入生に対し、分野の近い継続履修生をジュニアメンター、特任教員をシニアメンターとして割り当て、3層体制となるメンター指導制度を敷いている。

・社会実装プログラムの前倒し運用

本プログラム前半の教育は、「研究実践力の涵養」に重きを置くカリキュラムであり、「社会実装力の涵養」は後半で教育するカリキュラムであったが、履修生は早い段階から研究者としてのプロ意識と、研究成果を社会に還元するための社会実装マインドを持つことが重要（例えば、論文と特許申請の関係性など）であると考え、1年次から最終年次までを通じ、一つの社会実装教育パッケージとして提供できるように検討を重ね、前倒しで社会実装教育を行えるよう改革を行なった。

・他専攻の学生と交流する科目の設定

本プログラムでは、当初はプログラム内にある多様な専攻同士の交流科目を設定していたが、プログラムの大学全体への水平展開の一環として、生命医科学分野の枠をこえ、工学研究科や経済学研究科の学生とともにチームを組み、イノベーションをデザインする場の設定を行なった。文理問わず、プログラム外の学生とも刺激し合うことは履修生にとっても励みになる。

・学生の立場にたった履修しやすい環境の整備

プログラム全年次対象の履修生ハンドブックの作成・共有、履修生専用ページ（ウェブサイト）を設け、授業スライドのオンデマンド提供、レポート提出などプログラムに係る情報を一元化したシステムを整備した。また、ポートフォリオを構築し、本プログラムを通じて何を経験したのかを常に見える化し、修了審査のみならず、就職活動で活用できるよう指導している。

・一様な経済支援外の支援の拡充

一様な経済支援外の対応として、直接の金銭的支援のみではなく、学生の教育効果に資する形での支援も重要であると考え、卓越ライブラリーを設置した。各学生が各々の研究分野に基づく社会実装案を考える一助になるよう書籍や情報源の収集および貸出、IELTS および TOEFL 検定料の支援、サイエンティストとしてビジネス知識を強化するためのオンライン動画ビジネス教材費の支援、オンライン授業が主流になっている現状に対応することも含めたタブレットの貸出支援を行っている。

② 計画通り進んでいる事項

・プログラム整備

本プログラムでは、全般的に当初策定された計画を着実に実行しており、目標とする指標を上回った成果を得ている。本プログラムで養成する人材は、卓抜した研究成果をあげるとともに生命医科学を俯瞰できる「研究実践力」と、その研究成果を社会応用する「社会実装力」を兼備した博士人材であり、研究開発エコシステムをまわすことのできる者である。絶対的な研究力を主軸とした博士人材を輩出するため、4年制学部卒者に対応した5年一貫コースおよび6年制学部卒・修士卒者に対応した4年制コースから成る主専攻型博士学位プログラムを確立した。また、学位記には、本プログラム修了の旨が付記される。

カリキュラムは、所属する研究科を本籍とし、研究実践力を身に付けるための所属研究科固有の教育モジュールと、社会実装力を養うための研究科共有の横断的教育モジュール（社会実装教育モジュール）で構成される。社会実装教育モジュールの全ては、異なる研究科の学生とともに学習し、他専攻、他業界について触れ理解を深める教育内容になっている。例として、学生同士で、パネル側とプレゼンター側に分かれ、自身の研究紹介と討議を通じて、異分野の研究室の取組を知り、互いの研究のコンセプトやアプローチに共通の関心を見出し、融合研究や共同研究の可能性をみる場、また、生命医科学分野の枠をこえ、工学研究科や経済学研究科の学生とともにチームを組み、イノベーションをデザインする場、アカデミア界のみならず、学外の研究所や企業を訪問する場、といった専攻外との交流が広範的に整備されている。

・外部評価に基づくプログラム改善

外部評価委員より、プレゼンテーション力に加えライティング力の強化、英語による発表力の不可欠さと強化、また、社会実装や起業のよい点ばかりではなく、いかに挑戦的でハードルが多く存在するかという現実についても指導した方がよいという意見をいただき社会実装教育内容に反映させた。

③ 改善が必要な事項

新型コロナウイルス感染拡大の影響にともない、プログラムとしての教育の質を担保するために行っている工夫として以下の3点がある。

- ・ 自律性の尊重：本プログラムのゴールを履修開始時に明確にして自律性を促している。
- ・ 本プログラムへの帰属感：社会情勢に応じたプログラム活動実施体制の随時通知、メンター制度の充実活用、オンラインでの学生間の交流の場の創出を行っている。
- ・ 学生が能力を互いに示し発展させる環境の整備：プログラム独自のモジュール科目を予定通り実施し、オンライン上でも学外の多様な人々との交流の場を創出し臨場感ある仕掛けをしている。

現在、オンラインでの授業や交流が主流になっており、今後も定着することから、本プログラムの教育形態に建設的な第三の道を見出し確立することが必要である。教室での対面授業・交流に勝るものではなく、特に実施体験で影響を受けている点はあるが、オンライン文化の出現により、交流や情報交換を加速できており、学生対象のアンケートからもメリットが確認できる。一方、「研究室からは発言しにくい」といった声もあり、それに対応できるようハイブリッド形式での実施を導入した。オンライン形態は今後も定着することから、新たなプレゼンテーションのスタイルを開発し、コロナ新時代に全国展開できるようなシステムの構築を企画する。

また、申請時の予想を超えた多様な社会人経験を有する履修生を受け入れることができ、学生のライフサイクルが様々である。履修生にも連携機関にも有益でタイムリーな授業スケジュールの効果的なあり方を引き続き検討する。

④ プログラムとしての今後の見通し

本プログラムでは、概ね申請時の計画を達成しており、カリキュラムおよび単位対象科目の設定、科目内容の整備、およびプログラム・カレンダーを既に構築している。業績評価指数の達成についても、既に国際学会の発表における受賞者や、社会実装実践訓練において自身の研究成果の社会実装案が形になっている者もあり、優秀な第1期生を輩出できる見込みである。

本プログラムの特任教員は自ら社会実装教育を受け、履修生への講義も開始しており、プログラム終了後も継続して教育できる体制を整えつつある。

大学全体の大学院改革の先導的な役割を果たすため、総長を機構長、理事・副学長を副機構長とする国際共創大学院学位プログラム推進機構の中に、本プログラムを一部門として位置づけている。この明確なマネジメント体制と同機構支援事務室のサポートのもと、組織的な大学院教育の改革推進のために活動している。本プログラムは、本学が大学全体に展開している「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（Double-Wing Academic Architecture, DWAA）」の基本的な考え方に基づき分野横断型高度教養教育をさらに推進するために設計されている。DWAAでは、専門領域の知を究める「知の探究」型教育、学際融合に基づく「知と知の融合」型教育、社会の解決すべき課題を発見し、共創を通じて課題解決する「社会と知の統合」型教育がある。引き続き本学の大学院教育改革を先導し、研究科の壁を越えた分野横断・部局横断型プログラムを大学全体に展開していく。